

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

アスリートのための メンタルサポート

『メンタルに悩むアスリートに
寄り添いケアするための本』

山口達也（スポーツ医学研究センター訪問研究員）編著
新興医学出版社／3300円（2024年5月）



記録や勝利という結果が求められるアスリート。オリンピックのような大きな大会ともなれば、選手にかかるプレッシャーは並大抵のものではないだろう。本書は10年以上にわたりトップアスリートの精神医学的問題を研究し、実際に選手をサポートしている精神科医や研究者、心理士たちのグループによる労作。『眠れない』『うまくプレーできない』『競技へのやる気が出ない』など、アスリートが抱える典型的なメンタルの問題を12章（ケース）に分け、それぞれのような考えの下で、どういったケアを行っているのかを解説している。指導者やスポーツドクター必携の一冊と言えるだろう。

教職員執筆の新刊

●徳永聡子（文学部教授）編

『神・自然・人間の時間―古代・中近世のときを見つめて』

慶應義塾大学出版会／3850円（2024年3月）

●谷口和弘（商学部教授）ほか編著

『サステナビリティ時代の会社―21世紀のコポレート・エコノミー』

慶應義塾大学出版会／2640円（2024年3月）

●太田達也（法学部教授）著

『犯罪被害者への賠償をどう実現するか―刑事司法と損害回復』

慶應義塾大学出版会／3520円（2024年4月）

●荒谷大輔（文学部教授）著

『贈与経済2.0―お金を稼がなくても生きていける世界で暮らす』

翔泳社／1980円（2024年4月）

●井手英策（経済学部教授）著

『ベーシックサービス―貯蓄ゼロでも不安ゼロ』の社会』

小学館新書／1056円（2024年4月）

●錦田愛子（法学部教授）著

『パレスチナ／イスラエルを読み解く』

えにし書房／2200円（2024年4月）

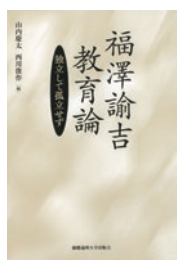
✂ 慶應義塾この一冊

『福澤諭吉教育論』

―独立して孤立せず―

福澤諭吉著 山内慶太常任理事・西川俊作（名誉教授）編

慶應義塾大学出版会／2530円（2024年3月）



現代に生きる私たちにも影響を与え続ける福澤諭吉の教育論を集成した渾身の一冊。『第一部 慶應義塾』では、福澤がどのような理念に基づき慶應義塾を創立し、教育事業を実践していったのかを解説。『第二部 学問と教育』では、「教育論」「家庭教育」などのテーマ別に福澤が残した言葉と文章がまとめられている。付録として、1900（明治33）年2月に福澤の指示で門下生たちによって制定された慶應義塾のモラルコードである「修身要領」全文29カ条も収載している。